

資料 1

# 武蔵野市食育推進計画

# 第 1 章 食育推進計画の策定にあたって

## 1 食育とは

平成 17 年、「食育基本法」（平成 17 年法律第 63 号）が制定されました。この法律が制定された目的は、国民が生涯にわたって健全な心身を培い、豊かな人間性を育むことができるようにするため、「食育」を総合的、計画的に推進することにあります。

### 《食育基本法 前文》

二十一世紀における我が国の発展のためには、子どもたちが健全な心と身体を培い、未来や国際社会に向かって羽ばたくことができるようにするとともに、すべての国民が心身の健康を確保し、生涯にわたって生き生きと暮らすことができるようにすることが大切である。子どもたちが豊かな人間性をはぐくみ、生きる力を身に付けていくためには、何よりも「食」が重要である。今、改めて、食育を、生きる上での基本であって、知育、徳育及び体育の基礎となるべきものと位置付けるとともに、様々な経験を通じて「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、健全な食生活を実践することができる人間を育てる食育を推進することが求められている。

もとより、食育はあらゆる世代の国民に必要なものであるが、子どもたちに対する食育は、心身の成長及び人格の形成に大きな影響を及ぼし、生涯にわたって健全な心と身体を培い豊かな人間性をはぐくんでいく基礎となるものである。

一方、社会経済情勢がめまぐるしく変化し、日々忙しい生活を送る中で、人々は、毎日の「食」の大切さを忘れがちである。国民の食生活においては、栄養の偏り、不規則な食事、肥満や生活習慣病の増加、過度の痩身志向などの問題に加え、新たな「食」の安全上の問題や、「食」の海外への依存の問題が生じており、「食」に関する情報が社会に氾濫する中で、人々は、食生活の改善の面からも、「食」の安全の確保の面からも、自ら「食」のあり方を学ぶことが求められている。また、豊かな緑と水に恵まれた自然の下で先人からはぐくまれてきた、地域の多様性と豊かな味覚や文化の香りあふれる日本の「食」が失われる危機にある。

こうした「食」をめぐる環境の変化の中で、国民の「食」に関する考え方を育て、健全な食生活を実現することが求められるとともに、都市と農山漁村の共生・対流を進め、「食」に関する消費者と生産者との信頼関係を構築して、地域社会の活性化、豊かな食文化の継承及び発展、環境と調和のとれた食料の生産及び消費の推進並びに食料自給率の向上に寄与することが期待されている。

国民一人一人が「食」について改めて意識を高め、自然の恩恵や「食」に関わる人々の様々な活動への感謝の念や理解を深めつつ、「食」に関して信頼できる情報に基づく適切な判断を行う能力を身に付けることによって、心身の健康を増進する健全な食生活を実践するために、今こそ、家庭、学校、保育所、地域等を中心に、国民運動として、食育の推進に取り組んでいくことが、我々に課せられている課題である。さらに、食育の推進に関する我が国の取組が、海外との交流等を通じて食育に関して国際的に貢献することにつながることも期待される。

ここに、食育について、基本理念を明らかにしてその方向性を示し、国、地方公共団体及び国民の食育の推進に関する取組を総合的かつ計画的に推進するため、この法律を制定する。

「食」をめぐる社会環境は変化しており、朝食欠食率の増加、肥満とやせ、食卓を中心とした家族の団らんの喪失など課題が多くなっています。

日本人の食事摂取基準（2015年版）の改訂にあたっては、生活習慣病の発症予防とともに「重症化予防」が加えられ、重要な課題となっています。

また、食育基本法が平成27年に改正されました。国では、平成28年4月に第3次食育推進基本計画を策定しています。

第3次食育推進基本計画では、5つを重点課題としています。

【食育の総合的な促進に関する事項】

- (1) 家庭における食育の推進
- (2) 学校、保育所等における食育の推進
- (3) 地域における食生活の改善のための取組の推進
- (4) 食育推進運動の展開
- (5) 生産者と消費者との交流の促進、環境と調和のとれた農林漁業の活性化等
- (6) 食文化の継承のための活動への支援等
- (7) 食品の安全性、栄養その他の食生活に関する調査、研究、情報の提供及び国際交流の推進

第3次食育推進基本計画  
食育推進に係る5つの重点課題

【重点課題1】若い世代を中心とした食育の推進

- ・子どもや若い世代(20歳代～30歳代)に対する効果的な食育に関する情報提供
- ・食に関する学習や体験活動の充実等

【重点課題2】多様な暮らしに対応した食育の推進(新)

- ・孤食になりがちな一人暮らしの高齢者への共食の機会の提供
- ・妊産婦や乳幼児への多様性を認識した栄養指導
- ・貧困の状況にある子どもへの食事提供等

【重点課題3】健康寿命の延伸につながる食育の推進

- ・生活習慣病の予防や改善、健康寿命の延伸につながる食育の推進
- ・歯科保健活動

【重点課題4】食の循環や環境を意識した食育の推進(新)

- ・地場産野菜を使用し、生産者の努力や食に関する感謝の念をはぐくむ取組
- ・農林漁業体験の機会の提供
- ・食品ロスの削減を意識した消費行動等を実践する取組

【重点課題5】食文化の継承に向けた食育の推進

- ・郷土料理や行事食の献立の積極的な導入
- ・和食の適切な保護・継承に向けた普及啓発等

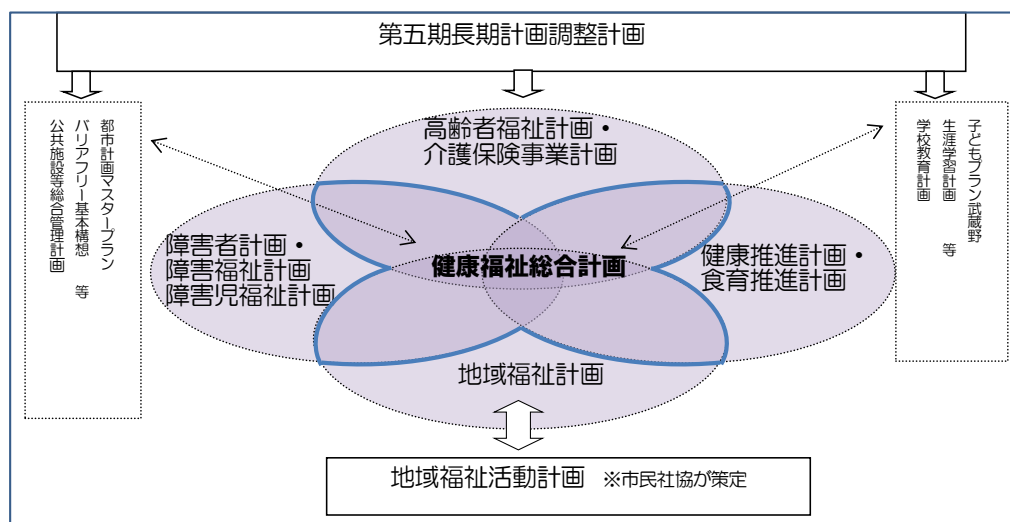
国の計画策定に合わせ、との食育推進計画が平成 28 年に改正されました。生涯にわたり健全な食生活を実践するための食育の推進、食育体験と地産地消の拡大に向けた環境整備や、食育の推進に必要な人材育成と情報発信という 3つの取組みの方向に基づいて推進しています。

武蔵野市では、第 3 期健康推進計画（平成 24～平成 29 年度）において、「食育の推進」を重点的取組みとして位置付け、食育を推進してきました。栄養課題を明確にし、多面的な取組みを推進するため、「武蔵野市食育推進計画」を策定し今後 6 年間の施策を推進していくこととします。

### 3 計画の位置づけ

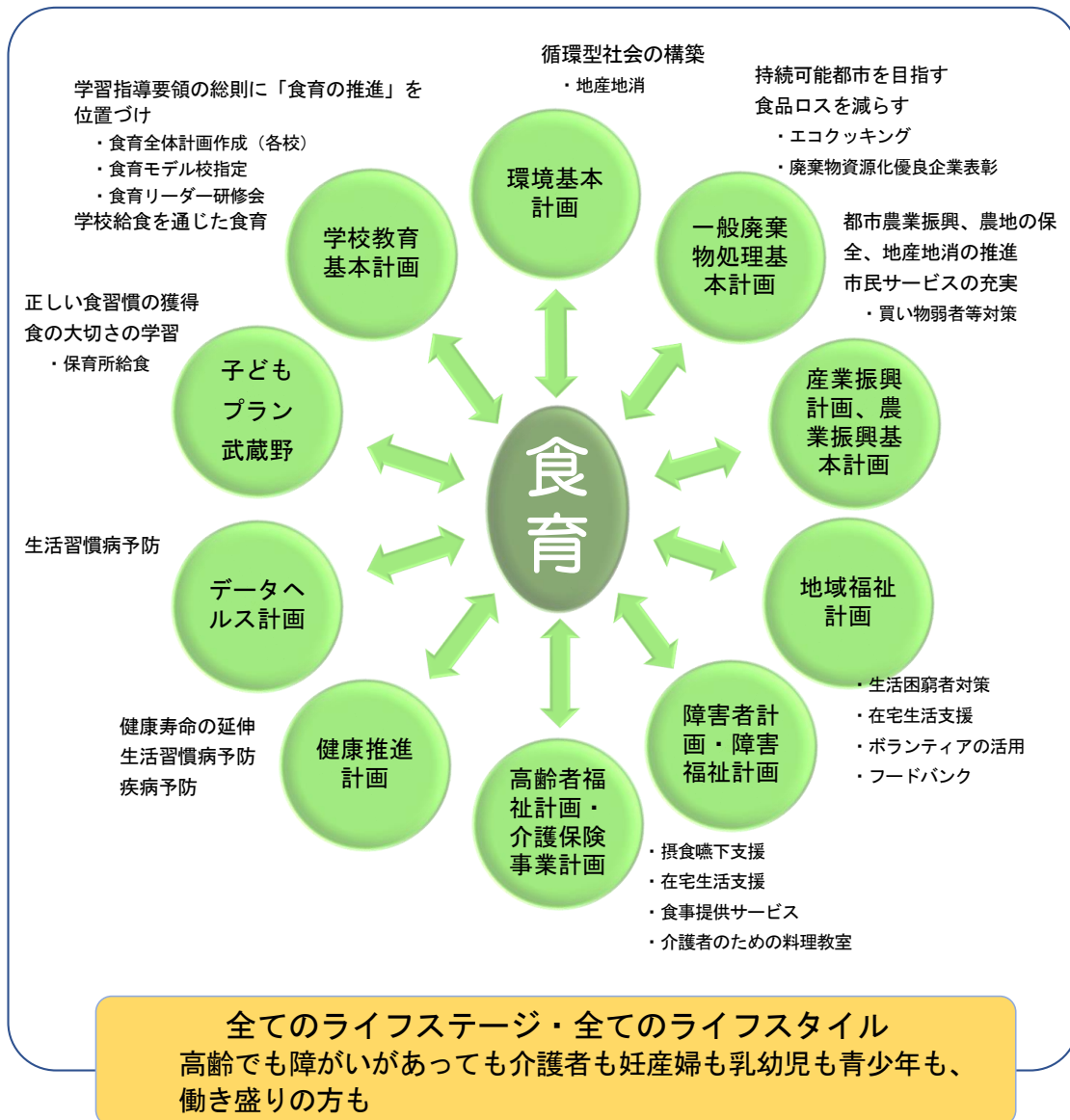
本計画は、市の上位計画にあたる「武蔵野市第五期長期計画・調整計画（2016 年度～2020 年度）」、「武蔵野市健康福祉総合計画 2018」健康に関する施策及び基本的な考え方をはじめ、平成 29 年 5 月策定の「武蔵野市地域医療構想（ビジョン）2017」を踏まえたものであり、市の関連個別計画との調和を図っています。

【図表1 武蔵野市第3期健康福祉総合計画・個別計画 策定イメージ】



食育に関係する、市の関連個別計画と調和を図り、連携して推進します。

【図表2 食育と市個別計画との関係】

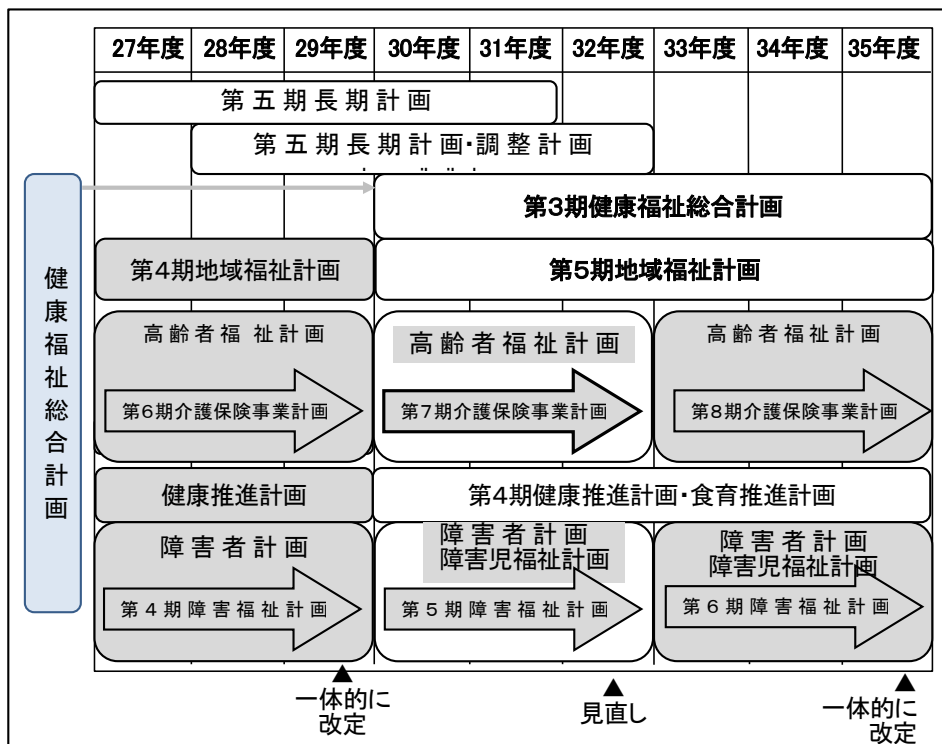


# 4

## 計画期間

本計画は、2018年度（平成30年度）から2023年度（平成35年度）までの6年計画とします。平成33年度（2021年度）を目途に中間評価を行い、社会情勢の変化等も考慮しながら、必要に応じて適宜見直しを行います。

【図表3 計画期間】



計画の策定に先立ち、健康・食育に関する実態調査や市の施策の実施状況などを基に、第4期健康推進計画・食育推進計画策定委員会において、今後の取組みの方向性などを審議してきました。また、パブリックコメント、市民意見交換会を開催し、広く市民の意見をふまえて策定しました。

### (1) 実態調査等の実施

- ・武蔵野市 市民の健康づくりに関するアンケート調査の実施
- ・武蔵野市 妊娠届書、乳幼児健診票集計

### (2) 計画の策定体制

第4期健康推進計画・食育推進計画策定委員会の設置

### (3) 関係団体ヒアリング

- ・武蔵野市健康づくり推進員ヒアリング
- ・武蔵野市健康づくり支援センターヒアリング
- ・武蔵野市健康づくり事業団ヒアリング

### (4) パブリックコメントの実施(予定)

平成29年12月1日(金)～12月22日(金)

### (5) 市民意見交換の実施(予定)

日時・場所 平成29年12月8日(金)午後6時30分・ゼロワンホール

日時・場所 平成29年12月10日(日)午前10時・市役所8階会議室

日時・場所 平成29年12月19日(火)午後2時・スイング

## 第2章 武蔵野市の状況

### 1 前計画期間中の取組み状況と点検

前計画（平成 24 年度～平成 29 年度「健康推進計画」における「重点的取組み3 食育の推進」）では、「食」についての市民の意識をより一層高め、家庭・学校・地域が一体となり、市民の健全な食生活の実践につながるような食育の取組みを進めてきました。

【図表4 主な事業の実施状況】

事業	内容	取組み状況
「食」に対する市民意識向上への取組み	本市の特徴を踏まえ、単身者や高齢者へ向けた「食」に関する普及・啓発を行います。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者食事学研究会の協力により、高齢者へ向けた料理教室等を行っています。</li> <li>・高齢の単身者へ向けて、テンミリオンハウスでの食事提供や会食型食事サービス等、共食の機会を提供しています。</li> </ul>
	歯科保健等と連携し、栄養面だけでなく、総合的な食育を推進します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児とその親へ向けて実施する歯科相談事業の中で、歯科衛生士と連携して、健康な歯を作るための食事や食習慣について栄養士による講義を行っています。</li> <li>・歯科健診を行っています。</li> <li>・外出が困難な高齢者を対象に、自宅または施設を訪問しての歯科健診や、摂食嚥下支援事業を行っています。</li> <li>・高齢者の低栄養状態を防止するための、口腔機能維持や口腔ケアの教室を行っています。</li> </ul>
家庭における食育の推進	健全な食生活を実践する家庭を増やすことを目標に、「食」に関する意識の向上をめざします。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インターネットやラジオ、市報を利用し、レシピや旬の食材・栄養などの食に関する正しい情報を発信しています。</li> <li>・ポスターやチラシによる、食に関する啓発を行っています。</li> <li>・「武蔵野油田プロジェクト」など食の循環の視点に立った事業を行っています。</li> <li>・妊婦や、乳幼児とその家族へ向けて、食に関する教室を実施したり個別の相談に応じたりしています。</li> <li>・健康や食生活に関する個別の相談を随時受け付けています。</li> </ul>
	保護者や子どもの食の選択力を育むため、子育て家庭を	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもや、その親に対する体験型の料理教室や食育教室を様々な場面でを行っています。</li> </ul>








事業	内容	取組み状況
	対象とした「食育講演会」の実施や体験型の食育講座を実施します。	・平成25年度は榊タニタヘルスリンクの管理栄養士、平成26年度は服部栄養専門学校の服部幸應氏による食育講演会を行いました。
	乳幼児健康診査等母子保健事業を活用し、「食」に関する実態調査を行います。	・平成25年度から27年度にかけて、1歳6か月児保育相談、3歳児健康診査時の問診票を活用し、食習慣に関する実態調査を行いました。
学校における食育の推進	給食・食育振興財団との連携により、児童、生徒、保護者への計画的な食育の取組みを進めます。	・各校が作成する「食に関する指導の全体計画」に沿って、調理体験や農業体験、給食の時間に食事マナーを伝える給食指導、食と各教科を関連させた授業等を実施し、評価を行っています。
	学校給食を通じた食育、食農体験、食事のマナー等、食に関する教育をさらに充実します。	・セカンドスクールにおいて食農体験を行っています。 ・保育園においても「食育年間計画」に沿って体験型の食育事業を行っています。 ・学校給食や保育園のレシピをクックパッド武蔵野市公式キッチンにおいて発信しています。
地域における食育の推進	民間事業者の協力のもと、ヘルシーメニューの提供や地場野菜の普及・促進、食文化の継承、地域の力を活かした食育を推進します。	・東京むさし農業協同組合と連携して、地場野菜の普及を行っています。 ・武蔵野商工会議所会員の飲食店において食育ポスターの掲示を行っています。 ・武蔵野商工会議所主催のイベント「ごちそうフェスタ」に食育ブースを出展し、食に関する普及・啓発や、地場野菜のPRを行っています。 ・「Ecoパートナー認定事業」など、食品ロスの視点に立った取組みを市内事業者と連携して行っています。 ・平成29年度に夏休みコミュニティ食堂を試行実施しました。 ・市内栄養専門学校の学生が考案した、地場野菜を使ったレシピをクックパッド武蔵野市公式キッチンにおいて発信しています。
各課が連携した食育の推進	食育を担当する各課が連携して食育を推進します。	・食育担当課連絡会議を年に1～2回開催しています。 ・平成29年度から健康課に栄養士職員が配置され、食育主管課となりました。

## 2

## 目標値に対する達成状況

食に関する目標について、目標値に対する達成状況は以下のとおりです。

【図表5 目標値に対する達成状況】

目標項目	アンケート結果		目標値	目標値に対する達成状況
	平成22年度	平成28年度	平成29年度	
①食生活・栄養に配慮している人の割合	55.4%	58.4%	60%以上	改善 
②朝食を毎日食べている人の割合	80.2%	80.8%	85%以上	横ばい 
③主食、主菜、副菜が揃っている人の割合	朝食:20.7% 昼食:40.9% 夕食:71.2%	朝食:45.9% 昼食:51.0% 夕食:79.8%	朝食:25%以上 昼食:45%以上 夕食:75%以上	目標達成 
④体重コントロールを心がけている人の割合	32.6%	28.2%	35%以上	減少 
⑤定期的に歯科の健康診査を受けている人の割合	56.0%	60.1%	60%以上	目標達成 

コメント [目時ひろみ]:

③と⑤については目標を達成しており、①については達成していないものの改善傾向にあり、②については横ばいとなっています。

④については、平成22年度よりも減少しました。この目標は「適正体重を知り、それに近づくように体重をコントロールする人を増やす」ということですが、アンケート結果はその割合を正しく反映できていない可能性があります。例えば、やせの状態にある女性が、やせ願望のために体重をさらに減らすようにコントロールしているなど、適正体重に対して間違った認識を持っている人がいると考えられるからです。

## 第3章 計画の基本的な考え方

本計画では、これまでどおり「地域リハビリテーション」の理念を基本とし、『食を通じて“いきいき”と暮らす“まち”武蔵野』を実現していくため、基本方針と基本施策を掲げます。

### 1 基本目標

食を通じて“いきいき”と暮らす“まち”武蔵野

### 2 基本方針

食に関するセルフマネジメント（自己管理能力）の推進

### 3 基本施策

基本施策1 ライフステージの特性に応じた食育の推進

基本施策2 地域と連携した食育の推進

基本施策3 市民が地域の中で継続して食育を実践するための情報発信と環境づくり

## 第4章 施策の体系

基本施策1：ライフステージの特性に応じた食育の推進	
(1) 妊娠期から乳幼児期への食育	①望ましい食習慣の形成と口腔機能発達のための支援
	②体験により、食への関心を高める食育
	③保育園給食を活用した食育
(2) 学齢期への食育	①学習指導要領に基づいた、教育課程に位置付けられた食育
	②学校給食の充実と給食を通じた食育
	③地域における食育
(3) 若年層への食育	①自ら健康管理する力を高めるための支援
	②効果的な食情報の発信
(4) 壮年期への食育	①生活習慣病を予防し豊かな食生活を送るための支援
	②効果的な食情報の発信
(5) 高齢期への食育	①一人ひとりの身体状況や生活習慣に合わせた食事のとり方に関する支援
	②口腔機能の維持・向上のための支援
基本施策2：地域と連携した食育の推進	
(1) 食の循環に関する連携	①食への関心を高め、理解と感謝の気持ちを育むための生産体験の推進
	②生産者との交流と地産地消の推進
	③食品ロス低減と食品リサイクルの推進
(2) 食を通じたコミュニケーションに関する連携	地域の力を活用した食のコミュニケーションの推進
(3) 栄養ケアを必要とする人への支援に関する連携	①栄養ケアに関する多職種連携の充実
	②多職種連携した栄養ケアの支援の検討
基本施策3：市民が地域の中で継続して食育を実践するための情報発信と環境づくり	
(1) 食に対する理解を深め、食育を実践するための情報発信	すべての年代に向けた、多様な手法による情報発信
(2) 多様な関係者の連携による食育の推進	①多分野にまたがる庁内食育担当課・庁外関係機関の連携と、計画の適正な進行管理・評価
	②専門職の活用と、質の維持・向上に向けた取組み

# 第5章 施策の展開

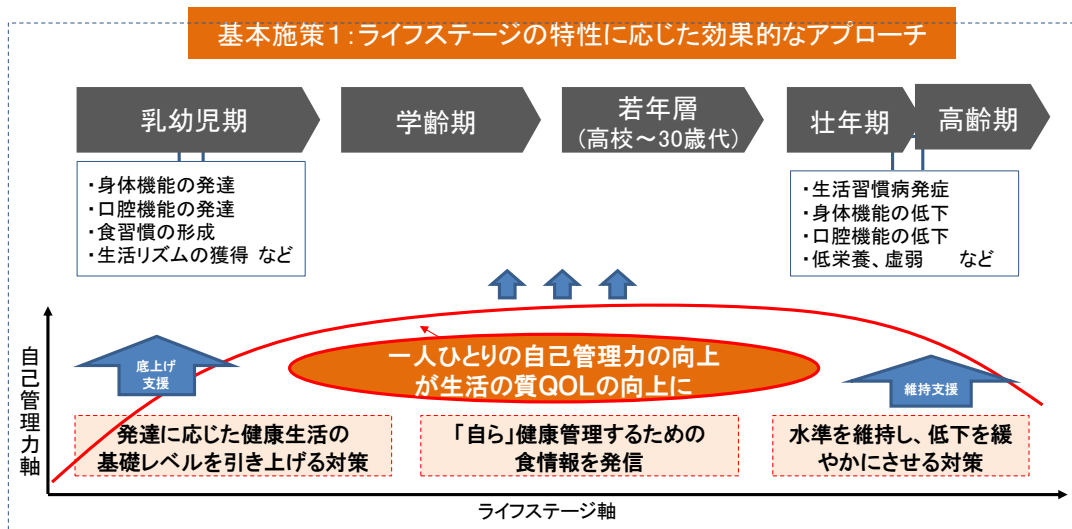
## 基本施策 1

### ライフステージの特性に応じた食育の推進

#### 基本的な考え方

- 乳幼児から高齢者までそれぞれのライフステージで食に関する能力を身につけ、その力を発揮して生活を営み、生涯を通じて健康的な生活を営めるように、ライフステージの特性に応じた効果的なアプローチにより支援します。
- 食物をよく噛んでおいしく食べ、健康で豊かな食生活を送るためには、口腔機能が十分に発達し、維持されることが重要です。このため、乳幼児期における機能獲得から高齢期における機能の維持・向上等、生涯を通じて、それぞれの時期に応じた歯と口の健康づくりを通じた食育を推進します。

【図表6 基本施策1のイメージ図】

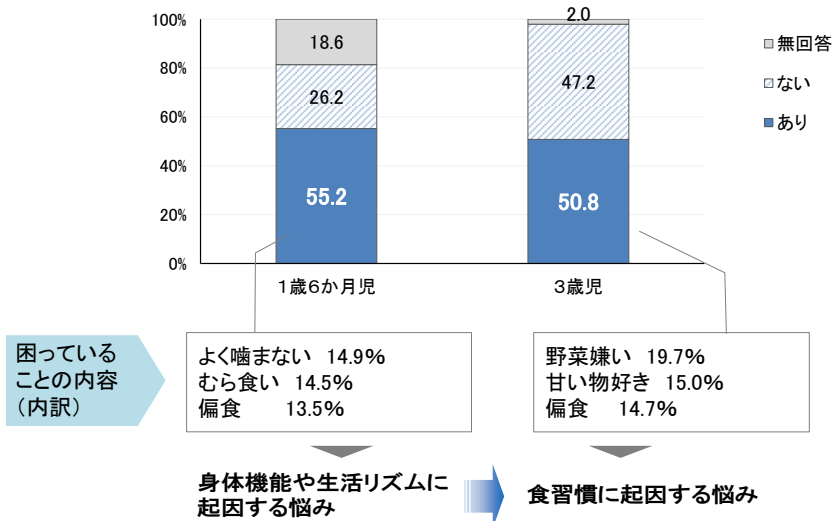


## (1) 妊娠期から乳幼児期への食育

### 現状と課題

- 乳幼児期は、身体・口腔機能が発達し、食習慣や人格形成の基礎がつけられる時期です。
- 妊娠届出時のアンケートでは、「妊娠時の不安なこと」として、「食事」と答えた妊婦が20%います。
- 乳幼児健康診査の問診票によると、保護者が「食生活で困っていること」として、1歳6か月児では身体機能や生活リズムに起因する悩みが多くありますが、3歳児では、野菜嫌い・甘いもの好きなど、食習慣に起因する悩みが目立っています。このことから、乳幼児期から食習慣における課題が出てくると考えられます。

【図表7 子どもの食生活で困っていること】



【出典：平成25年度～27年度乳幼児健康診査における問診票集計結果】

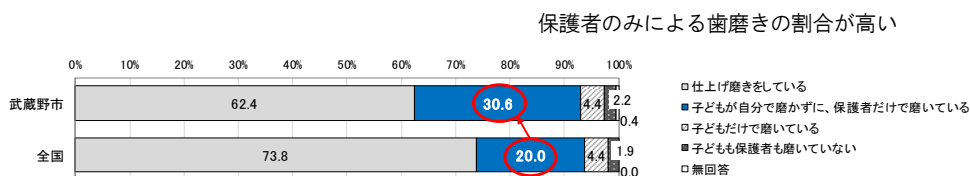
- むし歯のある子どもの割合は、1歳6か月児も3歳児も都平均より低くなっており、特に3歳児では26市で最も低くなっています。一方、甘味食品をほぼ毎日食べる習慣がある子どもの割合は、1歳6か月児で都平均より20ポイント高く、3歳児では24.9ポイント高くなっています。しかし、むし歯のある子どもの割合が1歳6か月児、3歳児ともに都平均よりも低くなっています。これは、子どもが歯を自分で磨かずに保護者だけで磨いている人の割合が高いからだと考えられます。

【図表8 平成28年度乳幼児歯科健康診査結果】

	受診者数	むし歯のない者	むし歯のある者			一人当たりのむし歯の数	問診結果						
			計	有病者率	未処置歯のある者(再掲)		甘味食品をほぼ毎日食べる習慣がある者	甘味飲料をほぼ毎日飲む習慣がある者	就寝時に授乳の習慣がある者				
1歳6か月児	市	1,276	1,270	6	0.5%	5	0.02	417	32.7%	238	18.7%	420	32.9%
	都	32,394	100,876	1,279	1.3%	1,162	0.04	12,925	12.7%	14,997	14.7%	30,711	30.1%
3歳児	市	1,185	1,102	83	7.0%	66	0.20	655	55.3%	352	29.7%	-	-
	都	103,426	92,393	11,033	10.7%	8,985	0.34	31,492	30.4%	25,054	24.2%	-	-

東京都歯科保健推進計画「いい歯」東京より

【図表9 保護者が毎日仕上げ磨きをしているか】



※国の割合は、平成27年度「健やか親子21(第2次)」の指標に基づく乳幼児健診問診項目の結果より

【出典:平成28年度 乳幼児健康診査における調査結果(1歳6か月)】

正しい食習慣の定着や口腔機能の向上のために、保護者に対して、食習慣や歯磨きなどの生活習慣に関する正しい知識を伝えることが必要です。

## 今後の方向性

### 望ましい食習慣の形成と口腔機能発達のための支援

- この時期に、望ましい習慣を心と身体に根付かせることが重要です。野菜を多く摂取すること、添加物のない食材を使うこと、栄養バランスのとれた食事をすること、残すことはもったいないと感じることなど、五感を磨き、食習慣の基礎を身に付けることが大切です。

親の生活習慣や働きかけが子どもの食習慣に大きな影響を与えるため、母子健康手帳交付時の面接やこのとり学級の機会を使って、妊娠期からの働きかけを行います。こんにちは赤ちゃん訪問、3～4か月児健診、1歳6か月児健診、3歳児健診は、市が9割以上の乳幼児とその保護者に接することのできる絶好の機会です。この機会を逸することなく、それぞれの時期に応じた働きかけを行います。

- 離乳食教室などにおいて、具体的な食事の作り方を伝え、実践につながるような取り組みを行います。
- 歯・口腔機能の向上のために、歯科と連携した取り組みを行います。

### 体験により、食への関心を高める食育

- 幼児期に豊かな食体験を積み重ねていくことで、食への関心や、食を通じた人との関わり・感謝、いのちを大切に思う気持ちが育ちます。豊かな食体験ができるような取組みを行います。

### 保育園給食を活用した食育

- 保育園生活を通じた体験の積み重ねで、望ましい食習慣を身に付けさせます。また、保育園給食を通じて、からだを成長させます。

主な事業	内容	担当
望ましい食習慣の形成と口腔機能発達のための支援	こうのとりの学級、離乳食教室(「はじめて教室」「もぐもぐ教室」「かみかみ教室」)、乳幼児健康診査・発達相談、妊婦歯科健診、乳幼児歯科健診・乳幼児歯科相談、電話による個別健康相談、面接による個別相談(保健センター)	健康課
	ひろば事業における離乳食や幼児向けおやつを試食、離乳食講習会(保育園)	子ども育成課 子ども協会
	離乳食講座、食事相談(境こども園いこつと)	子ども育成課 子ども協会
	食事講座、食・なんでも相談、食事レシピの掲示(0123施設)	子ども政策課 子ども協会
体験により、食への関心を高める食育	2歳・3歳児向け親子でおやつ作り(0123施設)	子ども政策課 子ども協会
	3歳児向け事業「りんご組:登録制」(境こども園いこつと)	子ども政策課 子ども協会
	乳幼児・保護者対象の料理教室(市民会館)	生涯学習スポーツ課
保育園給食を活用した食育	給食の提供、野菜の皮むき・さやだし、食事指導、出前料理、野菜の栽培・収穫、食材の話、料理保育、保護者試食会、給食献立表・給食だより・給食レシピ配布(保育園)	子ども育成課 子ども協会

「子ども協会」:武蔵野市子ども協会



## (2) 学齢期への食育

### 現状と課題

- 学齢期は、からだが大きく成長し、世界が広がることでここも大きく成長する時期です。親の目が行き届きにくくなり、朝食の欠食・偏食・夜更かしなどの生活習慣の乱れや、むし歯の増加、やせ志向による過度のダイエットなどの課題が出てきやすい時期でもあります。
- 定期健康診断状況報告や学力・学習状況調査からは、栄養不良や肥満の子ども、朝食を欠食する子どもは多くはありませんが、一定数いることがわかっています。

【図表10 児童生徒の栄養状態】

児童の栄養状態の推移(年度)【公立小学生】 栄養不良、肥満傾向の子どもは一定数いる。

	男子					女子				
	23	24	25	26	27	23	24	25	26	27
受診者数	2,568	2,552	2,602	2,608	2,709	2,304	2,392	2,446	2,558	2,625
栄養不良	-	-	2	-	4	-	1	3	-	4
肥満傾向	29	20	16	10	20	10	10	11	14	21

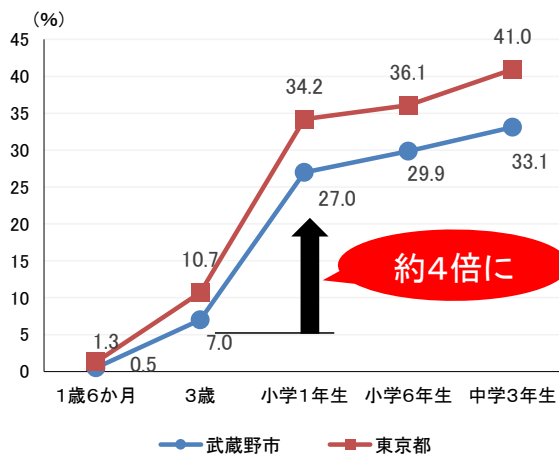
生徒の栄養状態の推移(年度)【公立中学生】

	男子					女子				
	23	24	25	26	27	23	24	25	26	27
受診者数	993	1,002	1,011	998	974	832	816	805	793	819
栄養不良	-	10	-	-	-	-	9	-	-	-
肥満傾向	5	18	5	3	1	6	14	12	2	1

参考:3歳児健診 肥満とやせ(平成25~27年度累計)	
肥満だと思う	0.8%
やせだと思う	3.4%

- 歯科健康診査結果では、小中学生のむし歯罹患率が、乳幼児期と比較して4倍に増加しています。

【図表11 平成28年度子どものむし歯罹患率】



## 今後の方向性

### 学習指導要領に基づいた、教育課程に位置付けられた食育

- 子どもたちに、生涯にわたって健康に生活するための基盤を作るため、学校では食育を教育課程に適切に位置付け、「食に関する指導の全体計画」に基づき、「食育リーダー」を中心とした食育推進チームにおいて、様々な食に関する授業や取り組みを実践していきます。
- また、「食育推進モデル校」を指定し、地域の農家や生産者、武蔵野市給食・食育振興財団等と連携した多彩な取り組みを実践し、食育リーダー研修会等において事例を市内小中学校へ紹介するなど、よりよい食育の推進に向け取り組んでいきます。

### 学校給食の充実と給食を通じた食育

- 子どもたちのからだの成長につながるよう、栄養バランスのとれた充実した学校給食を提供します。また、栄養士や調理員が各学級に出向き、栄養士による栄養指導や調理員による食育指導等も数多く行っています。

～給食のこだわり～

- ・安全を考え、食材の選定基準を設けたり、残留農薬や遺伝子組み換えに配慮した食材を使用しています。
- ・旬の食材や武蔵野産、契約農家の野菜を取り入れ、農家や食材料の生産に関心を持てるように努力しています。
- ・素材から手作り給食を心がけています。
- ・化学調味料は使用せず、だしは、けずり節、昆布、鶏ガラ等を使用しています。
- ・季節感を取り入れた行事食を取り入れています。
- ・米飯中心の献立にしています。
- ・塩分や脂肪のとり過ぎに注意しています。
- ・咀嚼力をつけるような食品や献立を取り入れています。

主な事業	内容	担当
学習指導要領に基づいた、教育課程に位置付けられた食育	「食に関する指導の全体計画」に基づいた食育の実践（食事の重要性・心身の健康・自ら判断できる能力・感謝の心・社会性の向上・食文化の理解等） 食育推進モデル校の指定 食育リーダー研修会	指導課
学校給食の充実と給食を通じた食育	学校給食の提供、栄養指導、調理員のクラス訪問、食育授業、調理クラブ指導、バイキング給食、交流給食、調理実習と調理場見学、給食時間の校内放送、保護者試食会、給食だより・調理場だよりの発行	武蔵野市給食・食育振興財団
地域における食育	遊びのミニ学校「料理教室」、夏休み親子教室、食育出前型教室 チャレンジキッズ教室	生涯学習スポーツ課

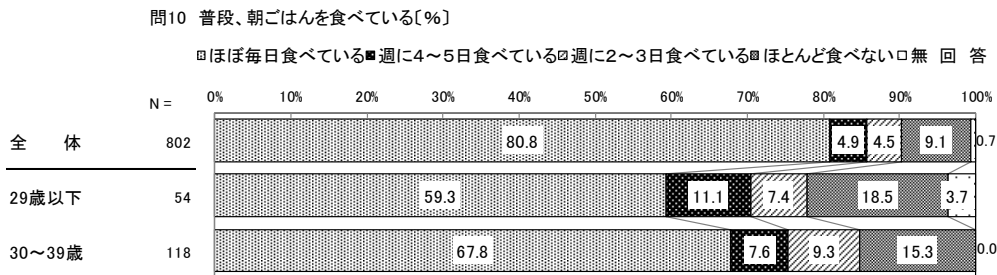
### (3) 若年層への食育

#### 現状と課題

- 20～30 歳代は、社会に進出するなど行動範囲が地域にとどまらない時期です。自ら必要な情報を入手することができる一方、行政との接点は少なくなります。学業や仕事、子育てなどに忙しく、自らの健康に配慮できないことが多くなる時期です。
- 「アンケート調査」によると、普段朝食を食べている割合は、若年層では全体に比べて低くなっています。

【図表 12 普段朝食を食べている人の割合(全体と20・30 歳代)】

【出典:武蔵野市市民の健康づくりに関するアンケート調査報告書(平成 29 年3月)】

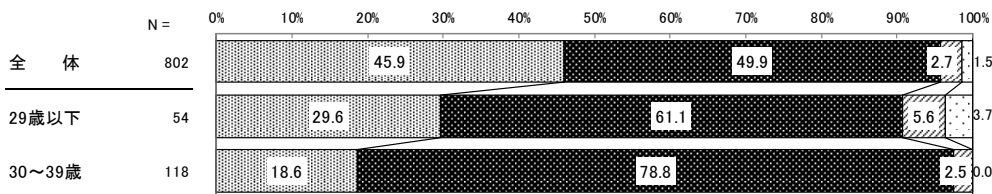


- 朝食で主食・主菜・副菜がそろっている割合が若年層で低くなっています。

【図表13 朝食で主食・主菜・副菜がそろっている人の割合(全体と20・30歳代)】

問9 ①朝食【%】

□ほぼ揃っている ■揃っていない ▨わからない □無回答

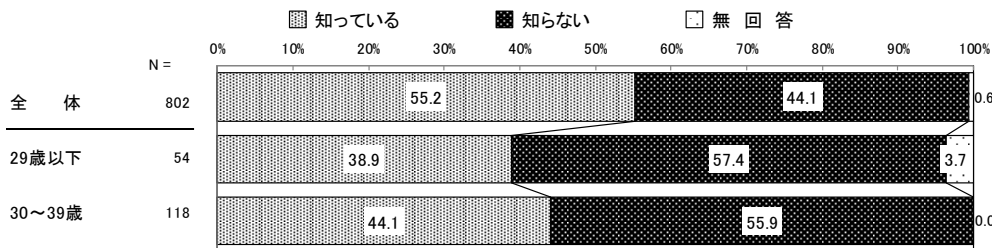


【出典:武蔵野市市民の健康づくりに関するアンケート調査報告書(平成29年3月)】

- 若年層では、野菜の適正摂取量の認知率は半数に満たず、市内産野菜を購入している割合も低くなっています。

【図表14 野菜を1日350gと目標になっていることの認知度(全体と20・30歳代)】

問17 野菜を1日350g目標の認知[%]

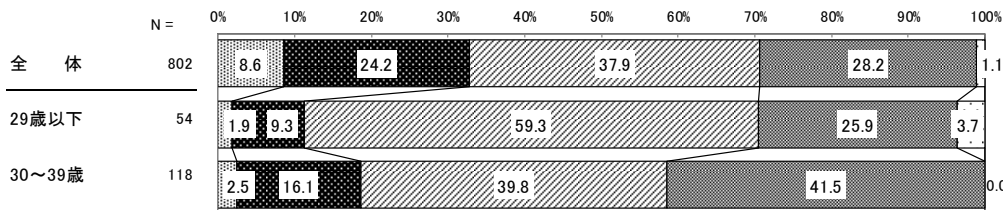


【出典:武蔵野市市民の健康づくりに関するアンケート調査報告書(平成29年3月)】

【図表15 市内産野菜を購入している人の割合(全体と20・30歳代)】

問16 市内産の野菜の購入[%]

□積極的に購入している ■どちらかというで購入している ▨わからない □購入していない □無回答



【出典:武蔵野市市民の健康づくりに関するアンケート調査報告書(平成29年3月)】

## 今後の方向性

### 自ら健康管理する力を高めるための支援と、食情報の発信

- 健康な食生活を送る必要性についての気付きを与え、自ら健康管理するためにインターネットや SNS など様々な媒体や、若年層健康診査など若年層と接する数少ない機会を活用し、食に関する正しい情報や関心を高めるイベントなどの情報を発信します。

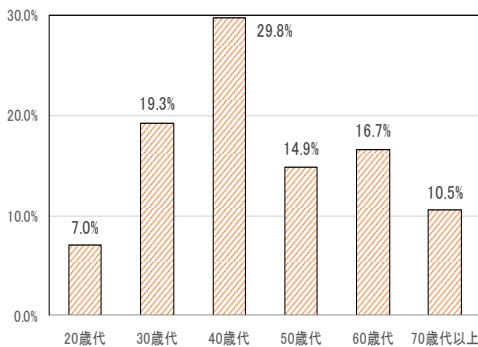
主な事業	内容	担当
自ら健康管理する力を高めるための支援	<b>新規</b> 健診結果を活用した情報提供 歯科健康診査、 健康相談・健康なんでも相談(再掲)、インボディ測定会、 血圧科学セミナー、食事ハート診断、消費生活講座、 消費者スクール、料理講座	健康課 消費生活センター 武蔵野健康づくり事業団
効果的な食情報の発信	<b>拡充</b> クックパッド武蔵野市公式キッチンを活用 様々な手段を用いた情報発信(インターネット、SNS、 むさしのFM、チラシ等)	健康課

## (4) 壮年期への食育

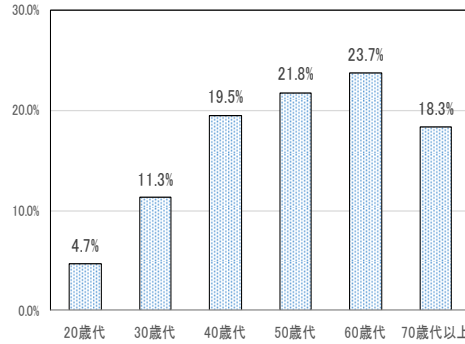
### 現状と課題

- 40 歳～64 歳代は、仕事や子育てなど社会で活躍する世代のため、自らの健康に配慮できないことが多くなっている時期です。その一方で、食への関心は若年層よりも高くなっています。
- 「アンケート調査」では、市に期待することとして、40 歳代で「食を学び楽しむイベントの充実」が高く、50 歳代から 60 歳代女性で「食の安全、安心に関する情報提供」が高くなっています。
- また、40 歳代男性では、食生活での問題と感じていることとして、カロリーのとりに過ぎと答えた割合が高くなっています。

【図表16 食を学び楽しむイベントの充実を望む人の割合】



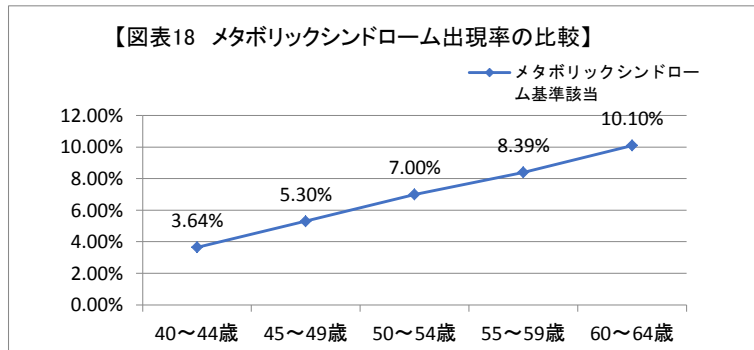
【図表17 食の安全、安心に関する情報提供を望む人の割合】



【出典：武蔵野市市民の健康づくりに関するアンケート調査報告書（平成29年3月）】

- 生活習慣の影響から、健診結果や歯・口腔の状態に症状や不安が生じてくる時期でもあります。
- 市で実施した健康診査の結果では、メタボリックシンドローム基準該当者の出現率は、年齢が上がるにつれて増加しています。

【図表18 メタボリックシンドローム出現率の比較】



- 平成 28 年度に実施した 40 歳以上の歯科健康診査の結果では、歯や口腔の状態について、不満に感じる症状の中で「歯にものが挟まる」が最も多くなっています。また、「歯がしみる」と回答した割合は、40 歳代が最も多くなっています。
- 歯間部清掃器具の使用について、歯科健康診査を受けている人の中で器具をほぼ毎日使用している人は、40 歳から 64 歳で 39.5%、65 歳以上で 52.8%いますが、使用していない人は 40 歳から 64 歳で 23.8%、65 歳以上で 22.6%います。
- 口腔の清掃状態は、「不良」の割合が全体の 9.0%、「良好」の割合は 27.6%でした。年齢が高くなるにつれて、「良好」の割合が減少しています。

【図表19 口腔の清掃状況】

年齢別	良好	普通	不良
40～49歳	33.8%	60.3%	5.9%
50～59歳	30.4%	64.1%	5.5%
60～69歳	28.9%	64.3%	6.8%
70～79歳	25.5%	64.5%	10.0%
80～89歳	21.2%	62.5%	16.3%
90歳～	22.4%	55.3%	22.4%
全体	27.6%	63.4%	9.0%

【出典：平成28年度歯科健康診査解析報告書】

## 今後の方向性

### 生活習慣病を予防し豊かな食生活を送るための支援と、食情報の発信

- 自らの体を知り、将来の自分の姿を想像し、いつまでもいきいきと暮らすための気付きを与えることが必要です。自ら健康管理をするためにインターネットや SNS など様々な媒体や機会を活用し、生活習慣病の予防など食に関する正しい情報を発信し続けます。
- 市内産野菜直売所マップや事業の案内を広く周知するなど、地域の資源に目を向けさせる取組みを行います。
- 歯周疾患が増える時期であるため、口腔環境向上のための取組みを行います。

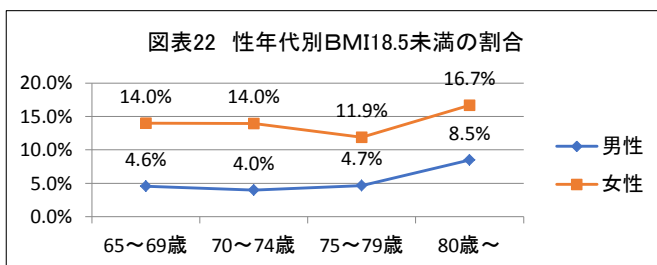
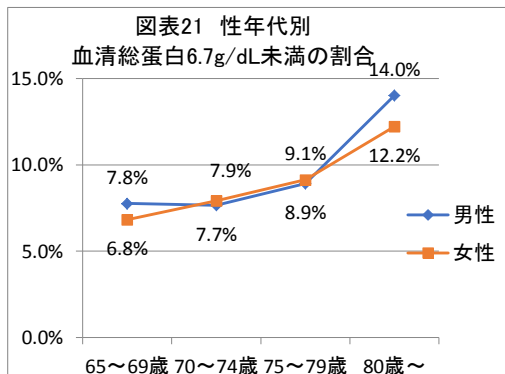
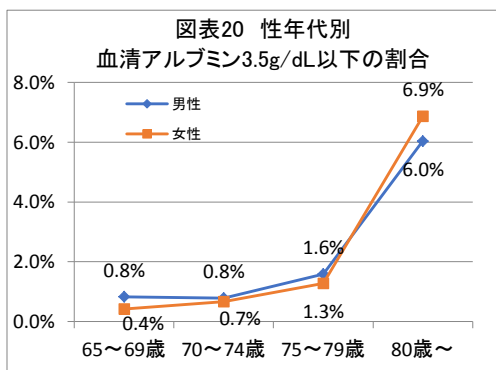
主な事業	内容	担当
生活習慣病を予防し豊かな食生活を送るための支援	歯科健康診査、 健診結果を活用した特定保健指導 <b>新規</b> 非肥満に対する保健指導の検討 健康相談・健康なんでも相談(再掲)、 インボディ測定会、血圧化学セミナー、食事ハート診断、 消費生活講座、消費者スクール、料理講座	健康課 武蔵野健康づくり事業団 消費生活センター
効果的な食情報の発信	<b>拡充</b> クックパッド武蔵野市公式キッチンの活用 様々な手段を用いた情報発信(インターネット、SNS、FM、チラシ等)	健康課

## (5) 高齢期への食育

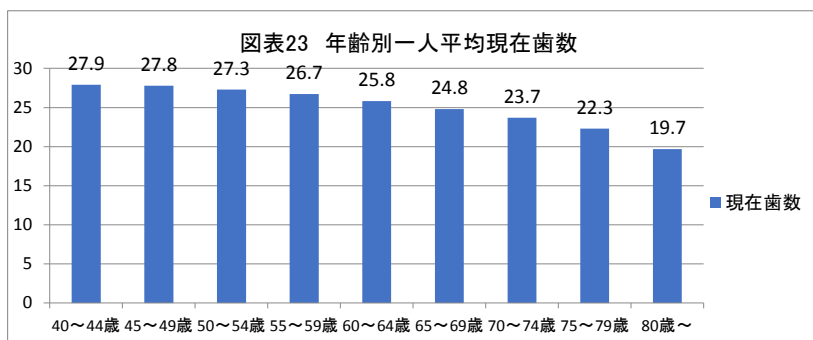
### 現状と課題

- 65 歳を超えると、身体・口腔機能が少しずつ低下していきます。また、生活習慣による疾病が発生することがあり、自らのからだや健康への意識が高くなる時期です。一人ひとりの状況に合った望ましい食事のとり方などの情報や支援が重要となります。摂食嚥下機能の維持・向上等の支援や、口腔機能の低下による誤嚥・窒息の防止をはじめとした支援も必要です。
- 「アンケート調査」によると、家族等と一緒にほぼ毎日夕食を食べている人は、他の世代と比較して高くなっていますが、75 歳以上女性では 23.9%の方が家族等と一緒に食べていません。
- 高齢世帯や独居世帯では、食事を楽しめない、簡単に済ませる、肥満・コレステロールが気になり必要なエネルギーやタンパク質を控える、口腔機能が低下するなどから、低栄養になる傾向があります。  
平成 28 年度後期高齢者健康診査の結果では、低栄養の目安となる「血清アルブミン」「血清総蛋白」「BMI」が基準値より下回る人の割合が、80 歳以上で増加しています。

【高齢期の健康状態】



- 平成28年度に実施した歯科健康診査の結果では、現在歯数は、年齢とともに減少しています。80歳以上の平均現在歯数は、19.7本であり、8020の達成者は69.6%で、90歳以上でも44.4%が20歯以上を保っています。8020達成者の割合は東京都目標値である50%以上を上回っています。



【出典：平成28年度歯科健康診査解析報告書】

- 摂食機能に関する問診項目では、「半年前より固いものが食べにくい」「お茶などでむせる」「口の渇きが気になる」などの症状がある者は、加齢とともに増加しています。90歳代では「口の渇きが気になる」と回答したのは、30.6%でした。
- RST（反復唾液嚥下テスト）は、嚥下障害が疑われる3回未満の人の割合が、全体の平均値は4.7%でしたが、90歳以上の群では最も多く、21.2%でした。

【図表24 質問項目で「はい」と回答した者の割合】

年齢別	半年前に比べて固いものが食べにくくなった	お茶や汁物等でむせることがある	口の渇きが気になる
40~49歳	3.3%	2.6%	6.5%
50~59歳	4.0%	4.4%	11.6%
60~69歳	6.0%	6.9%	12.9%
70~79歳	9.0%	11.8%	20.0%
80~89歳	10.5%	15.9%	25.0%
90歳~	18.8%	30.6%	30.6%
全体	6.9%	8.9%	15.8%

【出典：平成28年度歯科健康診査解析報告書】

【図表25 反復唾液嚥下テスト結果】

年代	3回未満の割合
40歳代	1.6%
50歳代	1.4%
60歳代	3.3%
70歳代	5.4%
80歳代	11.0%
90歳代以上	21.2%

【出典：平成28年度歯科健康診査解析報告書】



## 今後の方向性

### 健康状態の維持と機能を緩やかにする支援

- 高齢期に望ましい食事のとり方を伝えるための支援や、摂食嚥下機能の維持向上支援、口腔機能の低下による誤嚥・窒息を防止するための支援を関係する多職種と連携し実施する方法について検討をすすめます。
- 健康診査の結果を活用した栄養情報の提供や、テンミリオンハウス、いきいきサロン、老人ホームなど共食できる集いの場を活用するなど、効果的な普及・啓発の方法についても検討していきます。
- また、食事の支援が必要な高齢者にとって、配食サービスのニーズは高くなっており、民間の事業者も増加しています。平成 29 年 3 月に国から出された「地域高齢者等の健康支援を推進する配食事業の栄養管理に関するガイドライン」の普及を求められていることを受け、よりよい食事サービスを提供するための情報共有の方法を検討します。

主な事業	内 容	担 当
一人ひとりの身体状況や生活習慣に合わせた食事のとり方に関する支援	健康診査(再掲)、おいしく元気アップ教室、男性のための料理講習会、生活習慣病予防料理講習会、介護者のための料理講習会、地域会食会指導、配食サービス、消費生活講座(再掲)、料理講座(再掲)	健康課 高齢者支援課 消費生活センター
口腔機能の維持・向上のための支援	歯つらつ健康教室(再掲) <b>拡充</b> 摂食嚥下支援事業 在宅高齢者訪問歯科健診、 高齢者福祉施設訪問歯科健診、口腔ケア教室	健康課 高齢者支援課

## 基本施策 2

# 地域と連携した食育の推進

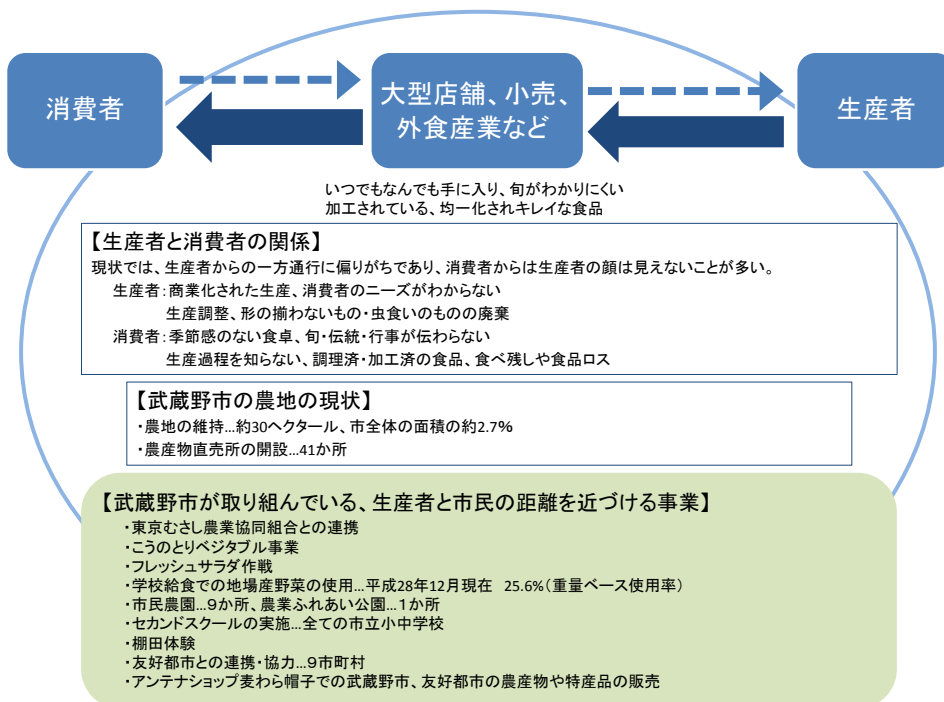
### 基本的な考え方

- よりよい食環境を維持するため、消費者から生産者に対する理解・感謝の気持ちと、生産者から消費者に対する安心・安全な食品の提供という、生産から消費までの「食の循環」を生み出す取組みを、市内や友好都市などの生産者と連携して行います。
- 地域の力を活用した食を通じた世代間交流を通し、食の楽しみ、食文化、伝統行事、料理技術などを継承していきます。
- 多様化する栄養課題に対応するため、栄養ケアを必要とする人への支援体制や方法を検討します。

## (1) 食の循環に関する連携

### 現状と課題

【図表26 消費者と生産者の関係 イメージ図】



- 市内の農地は、現在約 30 ヘクタールで市全体の面積の約 2.7 パーセントを占めています。農地は、農産物を生産するばかりではなく、緑の空間や災害時などの避難場所としてなどの重要な役割があり、大切に守っていかなければならないものですが、相続などの理由により徐々に減少しているのが現状です。
- 「アンケート調査」によると、「健全で豊かな食生活を送るために市や地域に期待すること」として、「農産物直売所の充実」が 44.2%と最も多く占めており、市内農産物への関心が高いことがわかります。
- 生産者と消費者の関係は、顔が見える機会が少なく、食品の提供は生産者からの一方通行に偏りがちですが、市では、生産者と市民の距離を近づけるために、東京むさし農業組合、武蔵野市商工会議所、友好都市の生産者などと連携した様々な取り組みを行っています。

## 今後の方向性

### 食への関心を高め、理解と感謝の気持ちを育むための生産体験の推進

- 食生活が自然の恩恵や、食に係る多くの人に支えられて成り立っていることを理解し、感謝の気持ちを育むため、市内農地・農園での農業体験や収穫体験などができる取り組みを積極的に行います。
- また、市内農地は減少していますが、市内小・中学校のセカンドスクールや友好都市での交流体験を通して、都市と地方、生産者と消費者の距離を近づける取り組みを推進します。

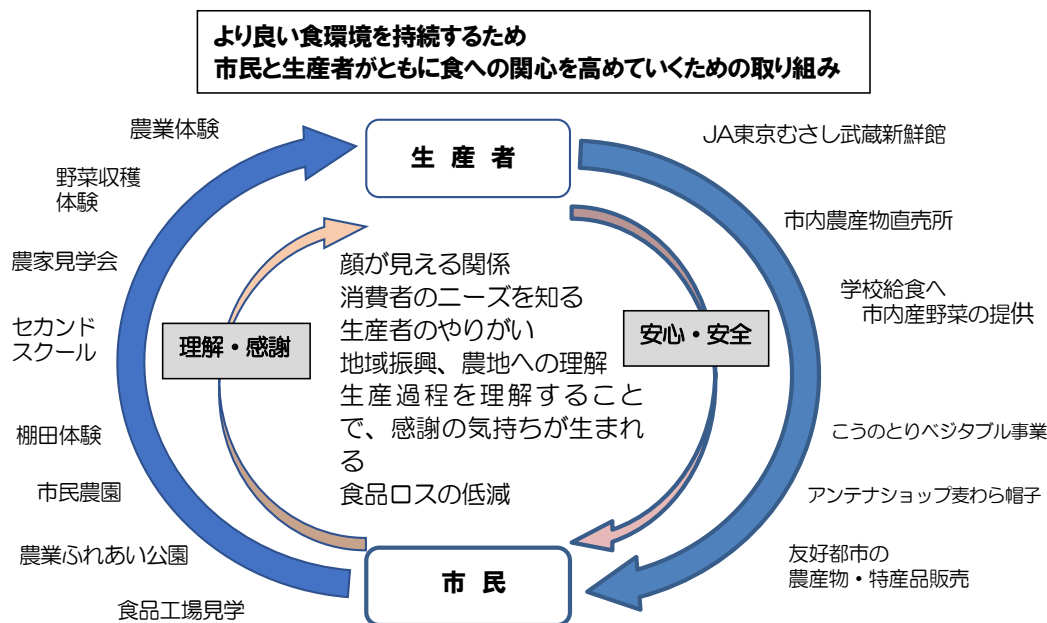
### 生産者との交流と地産地消の推進

- 市民に新鮮な市内産野菜などを提供するため、各農家、直売会、JA 東京むさし武蔵野新鮮館、アンテナショップ麦わら帽子などで市内産野菜などの販売を行います。また、学校給食においても市内産野菜を多く取り入れていきます。
- また、赤ちゃんが誕生したご家庭に「野菜等引き換え券」と市内農産物直売所マップを配布し、市内産野菜の普及・啓発を図ります。
- 9つの友好都市で生産された特産品や生鮮食品は、「アンテナショップ麦わら帽子」で販売します。各市町村を紹介するイベントや、仕入れ先の市町村の学校から販売体験を受け入れるなど、生産者と消費者との交流とともに発展できる取り組みを推進していきます。
- 武蔵野商工会議所や市内飲食店と協力した食育を推進します。

### 食品ロス低減と食品リサイクルの推進

- 食への理解と感謝の気持ちが育て、食品を捨てることを「もったいない」と感じ、食品ロスを低減させるよう普及啓発や、事業者と連携した取り組みを行います。

【図表27 食の循環 イメージ図】



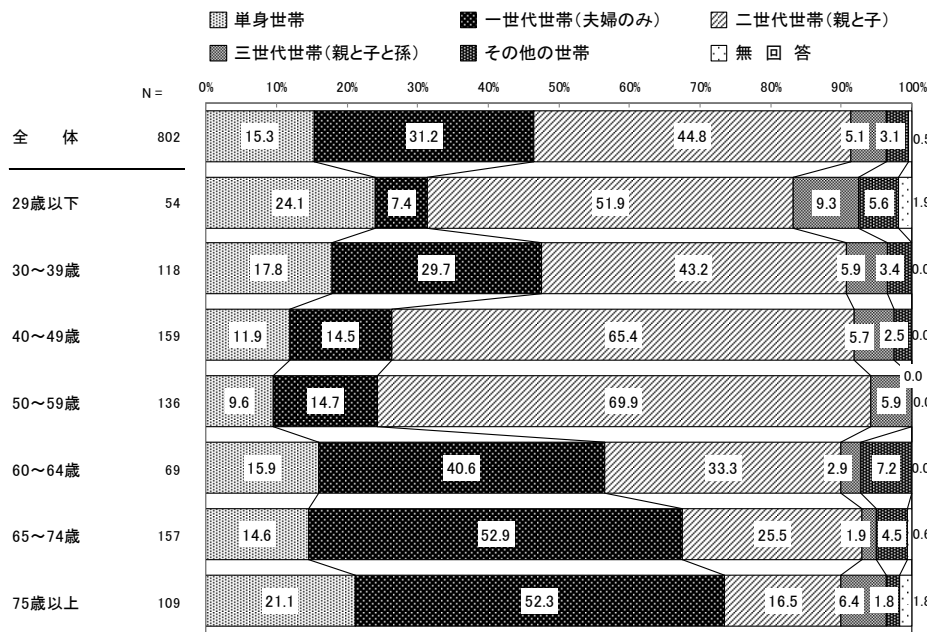
主な事業	内容	担当
食への関心を高め、理解と感謝の気持ちを育むための生産体験の推進	市民農園、農業ふれあい公園、保育園・子育て支援施設での農業体験、セカンドスクール(友好都市)、棚田体験(友好都市)	子ども政策課 生活経済課 緑のまち推進課 指導課 児童青少年課
生産者との交流と地産地消の推進	こうのとりベジタブル事業、農産物直売所マップの配布、学校給食での利用、JA東京むさし新鮮館、農産物直売所、アンテナショップ麦わら帽子、農家見学会、家族で体験大根づくり	生活経済課 武蔵野市給食・食育振興財団 東京むさし農業協同組合 武蔵野商工会議所
食品ロス低減と食品リサイクルの推進	廃食用油の回収、食品ロス低減の啓発、3R環境講座、フードバンク 規格外野菜の利用促進 Ecoパートナー認定事業(食品関連事業者による食品残渣抑制・生ごみ資源化)	環境政策課 ごみ総合対策課 生活福祉課 武蔵野市給食・食育振興財団

## (2) 食を通じたコミュニケーションに関する連携

### 現状と課題

- 「アンケート調査」では、市内における家族構成は、全体の91.3%が核家族（単身世帯・一世代世帯（夫婦のみ）・二世代会世帯（親と子））です。60歳代になると、単身・一世代世帯（夫婦のみ）は半数を超え、75歳以上になると、その割合は7割を超えています。

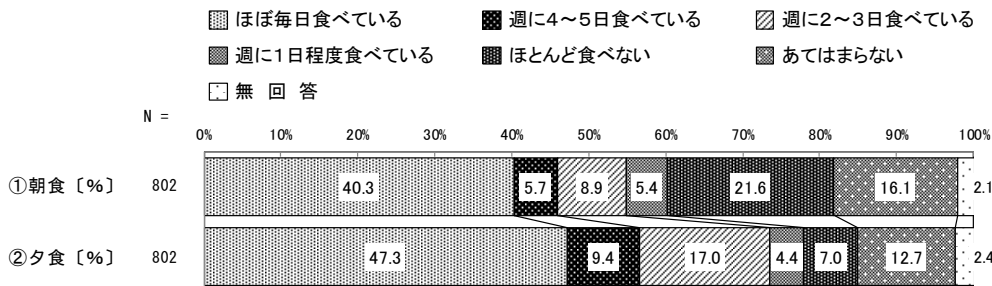
【図表 28 家族構成】



【出典:武蔵野市市民の健康づくりに関するアンケート調査報告書(平成29年3月)】

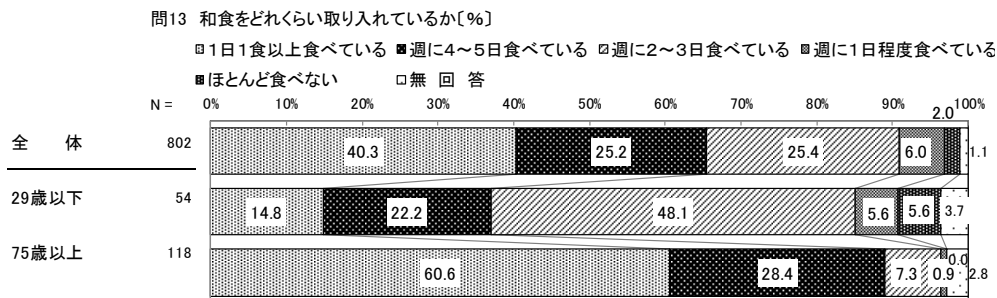
- 家族の方等と朝食・夕食をほぼ毎日一緒に食べている人は40~50%いますが、夕食では24%の人が家族等と一緒に食べる頻度が週に1日程度未満です。

【図表 29 朝食、夕食を家族の方等と一緒に食べている人の割合】



●和食を一日一食以上食べている人の割合は、高齢者に対して若年層では低くなっており、食文化や行事食などが継承されにくくなっていることが考えられます。若年層が高齢者と一緒に食事をするすることで、食文化が継承される世代間交流の機会が必要です。

【図表 30 和食を一日一食以上食べている人の割合(全体と20歳代・75歳以上)】



【出典:武蔵野市市民の健康づくりに関するアンケート調査報告書(平成29年3月)】

## 今後の方向性

### 地域力を活用した、食のコミュニケーションの推進

- だれでも一緒に食卓を囲み、食事をするところを通して、食べることの楽しさ、食文化、行事、料理技術などを伝え、継承していきます。
- また、望ましい食事のとり方や栄養に関する情報などを伝える場として活用していきます。

主な事業	内容	担当
地域力を活用した食のコミュニケーションの推進	夏休みコミュニティ食堂、 ふれあい給食、だんらん給食(学校と地域の交流) 地域会食会指導、 テンミリオンハウス、 いきいきサロン、 会食型食事サービス(地域開放型レストラン)	武蔵野市給食・食育振興財団 高齢者支援課

### (3) 栄養ケアを必要とする人への支援に関する連携

#### 現状と課題

- 市内の高齢者の数は年々増加しており、今後、在宅医療や介護の必要な高齢者の数も増加が見込まれています。市では在宅医療・介護連携推進協議会を設置して、多職種連携による支援や支援の体制について検討しています。
- 市では平成29年度より歯科医師会と連携して、高齢者に対する地域包括ケアを、摂食支援を通して推進しています。摂食嚥下支援事業とは、いつまでも自分の口から安全に食べられるようにするための支援を目的としており、摂食嚥下機能を評価し、個々の状態に合った食形態などの支援方法について多職種が検討して内容を共有しています。
- 保健センターでは、管理栄養士が医師や保健師と連携して個々の生活や身体機能の状態を把握しながら、健康課題を解決するための健康相談を行っています。しかし、多様化している栄養課題や、在宅で医療・介護を受け来所の難しい人については、個々の状況把握や、訪問支援する体制が整っておらず、支援が十分にできていないのが現状です。
- 今後増加していく在宅医療・介護の必要な人に対する、訪問栄養ケアの体制を整えていく必要があります。

#### 今後の方向性

##### 多様化する栄養課題への対応

- ライフステージや個々の状況に応じて異なる栄養課題に対しては、食事内容だけではなく、運動など身体機能の面での支援も必要となることから、様々な専門職がそれぞれの強みを生かしながら情報を共有して支援ができるよう、連携を充実させていきます。また、摂食嚥下支援事業を推進していく中で生じる課題や、訪問栄養ケアのニーズに対応するための、体制や支援の方法について検討していきます。

##### 地域の栄養相談窓口の設置

- 肥満・骨粗しょう症・慢性疾患など、栄養ケアや運動指導などの保健指導を必要としている人が気軽に相談ができるように、市内に数多く存在する薬局を活用する等、地域の中で相談できる場所の設置について検討をしていきます。

主な事業	内 容	担当
栄養ケアに関する多職種連携の充実	<b>拡充</b> 在宅医療・介護連携推進協議会 (管理栄養士・医師・歯科医師・薬剤師・歯科衛生士・ケアマネジャー・看護師・保健師・言語聴覚士・ヘルパー等との連携)	地域支援課
	<b>新規</b> 地域で相談できる窓口の設置の検討	健康課
多職種連携した栄養ケアの支援の検討	<b>拡充</b> 摂食嚥下支援事業	高齢者支援課
	<b>新規</b> 在宅ケアの必要な人への訪問支援の検討	健康課



### 基本施策 3

## 市民が地域の中で継続して食育を実践するための 情報発信と環境づくり

### 基本的な考え方

- すべての人が、食に関するセルフマネジメント(自己管理)力を向上・維持できることを目指して、正しい食の情報が適切な時期に得られるよう様々な手段で発信していきます。
- クックパッド武蔵野市公式キッチンにおいて、すべてのライフステージに向けたレシピや食情報を発信していきます。
- 庁内外の食育に関わる関係機関の連携を進め、様々な角度から食育を推進していきます。

【図表31 クックパッド武蔵野市公式キッチン トップページ(参考)】



・日本最大の料理レシピサービスであるクックパッドに、武蔵野市公式キッチンを開設しています。

・8つのカテゴリーのレシピを紹介しています(学校給食・保育園おやつ・離乳食・妊娠中から・地産地消・高齢者・食品ロス・野菜+ミルク)

・市が行っている安心・安全な食の取組みや栄養情報、食に関するイベント情報なども紹介しています。

・「クックパッド武蔵野市」で検索するか、武蔵野市ホームページからアクセスすると、利用できます。



## (1) 食に対する理解を深め、食育を実践するための情報発信

### 現状と課題

- 市報、ホームページ、食育のしおり、ポスター、チラシ、イベントにおける食育ブース等において食情報を発信しています。クックパッドやSNSにおける発信も始めています。すべての人に正しい食の情報を伝えることが必要なため、様々な手段で発信することが必要です。

### 今後の方向性

#### 多様な手法による情報発信

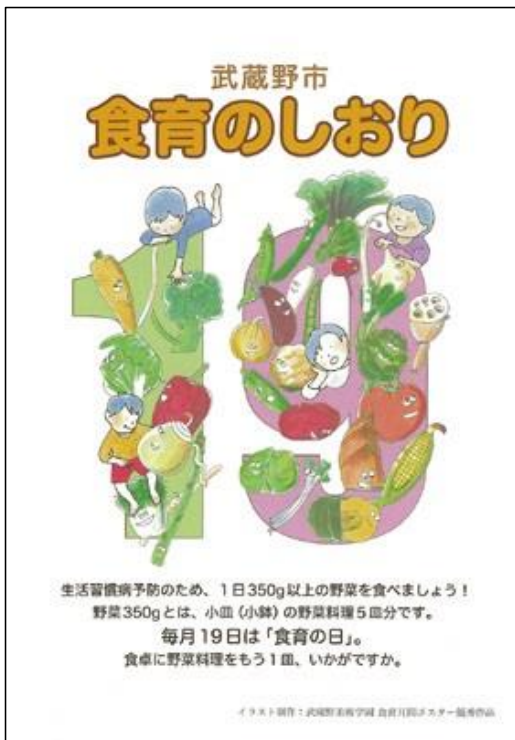
- すべての人が、食の正しい情報を適切な時期に得られるように、様々な手段で情報を発信していきます。
- いつまでもいきいきと暮らせるよう自ら健康管理する力を高めるために、楽しい食のイベント情報や正しい知識、おいしく健康的なレシピなどの情報を発信して、食への関心を高めます。

#### クックパッドの有効活用

- クックパッドにおいて発信している食の情報を、市民の間にさらに広めるためには、クックパッドのさらなる認知度向上が必要です。そのために、クックパッドにおいて公開しているレシピで実際に料理をする機会を提供します。

主な事業	内容	担当
すべての年代に向けた、多様な手法による情報発信	<b>拡充</b> クックパッドを活用した情報発信 レシピ、野菜・栄養情報、食のイベント情報の投稿 掲載レシピのFMへの投稿 レシピを再現する機会の提供	食育担当課
	食育月間(6月)に合わせた情報発信 食育のしおり、ポスター、チラシ	健康課
	食育の日(毎月19日)に合わせた情報発信 クックパッドへのレシピ投稿 SNSでの発信	食育担当課
	イベントにおける情報発信 ごちそうフェスタ、むさしの給食フェスタ、 子育てフェスティバル	健康課 武蔵野市給食・食育振興財団 子ども政策課 子ども育成課 武蔵野市子ども協会
	市報、ホームページ	

【図表32 武蔵野市食育のしおり(参考)】



平成29年度 武蔵野市の食育事業					
【妊産婦・0～5歳児】					
※ 平成29年5月現在の事業です。詳しくは、各担当課へお問い合わせください。					
事業名・開催場所	内容	対象・定員	実施時期	料 金	担当課
こうのとりのベジタブル事業	赤ちゃんが生まれたら市内産野菜等引換券をプレゼントします	赤ちゃんの生まれた世帯	こんにちは赤ちゃん助産時に引換券を配布	無料	生活経済課
こうのとりの学級(保健センター)	妊娠期からの食育講座(健康教育、調理デモ、試食) マタニティクラスの一部として実施します	初妊婦(16週～31週) 24名	月1回	無料	健康課
離乳食教室「はじめて教室」(保健センター)	栄養士による離乳食の話と簡単な試食	6カ月までの乳児とその保護者 25組	年11回	無料	
離乳食教室「もぐもぐ教室」(保健センター)	栄養士による離乳食の話と簡単な試食	概ね7～8カ月の乳児とその保護者 36組	年11回	無料	
離乳食教室「かみかみ教室」(保健センター)	歯科衛生士による歯の手入れの話	概ね9～11カ月の乳児とその保護者 36組	年11回	無料	
乳幼児歯科相談	定期健診初回の歯科衛生士による「むし歯予防教室」の中で、栄養士による栄養バランスや間食の取り方についての話	1歳6か月健診受診後の幼児とその保護者 12組	月2回	無料	
乳幼児健康診査・発達相談	健康診査・発達相談の中で、管理栄養士から離乳食についての話、歯科衛生士から口腔ケアについての話、個別相談を行います	乳幼児とその親	月8回程度	無料	

市役所の各課が行っている食育の取り組みを、妊産婦・乳幼児から小中学生、成人などライフステージごとにまとめ、1冊の冊子に見やすく掲載した「食育のしおり」を作成し、市内施設で配布しています。

表紙のデザインは、食育月間ポスター優秀作品となった武蔵野美術学園の学生の作品で、毎月19日が「食育の日」であること、生活習慣病予防のために1日350グラム以上の野菜を食べてほしいというメッセージが描かれています。

## (2) 多様な関係者の連携による食育の推進

### 現状と課題

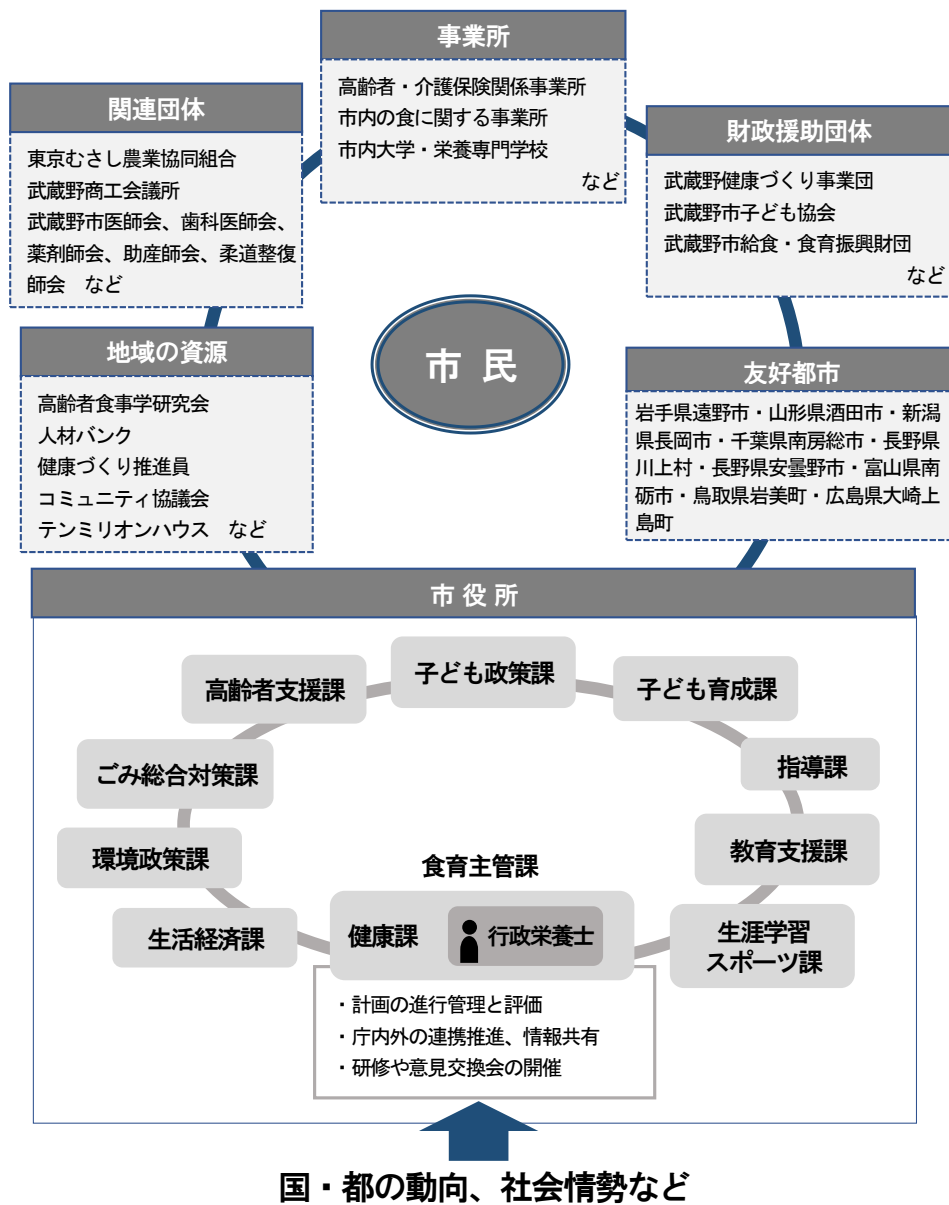
- 現在の食育推進体制では市内各課がそれぞれ食育事業を実施しています。
- 食育事業は、対象は乳幼児から高齢者までとすべてのライフステージに対して行っており、内容も多岐に渡っています。
- 平成 29 年度から健康課に栄養士職員が配置され、それと併せて食育主管課となりました。各課と連携するために、食育担当課の連絡会議を定期的を開催しています。「クックパッド武蔵野市公式キッチン」等を活用する中で情報共有を図っていますが、横の連携の強化が今後の課題です。また、栄養士をはじめとする多職種が、様々な分野において事業やサービスを展開しているからこそ、正しい情報や市の方針、国や都の動向を共有しあう場が必要とされます。

### 今後の方向性

#### 多様な関係者の連携による食育の推進

- 健康、福祉、教育、農政、環境、商工などの分野が連携し、国や都の動向や社会情勢、地域の特性や課題を共有し、計画的・総合的に取り組むための体制を強化します。事業実施にあたっては、適正な進行管理と評価を行います。
- 専門職の質を維持・向上させるための研修や、多職種での意見交換会などの場を提供することを検討していきます。

【図表33 食育の連携体制イメージ図】



主な事業		内容	担当
多分野にまたがる庁内食育担当課・庁外関係機関の連携と、計画の適正な進行管理・評価	拡充 拡充	庁内食育担当課連絡会議 庁外関係機関との連携	食育担当課
専門職の活用と、質の維持・向上に向けた取組み	新規	研修会や意見交換会の開催の検討	健康課

## 第6章 計画の推進に向けて

### 1 推進体制の確保

武蔵野市の食育の基本方針である「食に関するセルフマネジメント（自己管理能力）の推進」に向けて、市役所内における一層の連携を図るとともに、地域生活に密着している関係機関と、それぞれのネットワークを生かしながら相互に連携して推進します。

### 2 PDCAサイクルによる施策の推進

施策の進捗状況及び成果を把握するため、検証の目安となる目標値を設定して数量的な点検をするとともに、施策・事業の内容について定期的に確認・点検をします。そして、庁内連絡会議において、各施策・事業の点検・評価を経て、健康づくりや食育に関する課題の共有を図るほか、必要に応じて施策・事業の見直しや改善にいかしていきます。

あわせて、今後の推進に向けて協議する組織づくりの検討を進めていきます。

【図表34 計画の推進管理=PDCAサイクル イメージ図】

